

稲岡点鐘

今こそ時を逃がさず迅速な対応を！

今期最後のコラムとなった。今まで、色々な意見を書かせていただいたが、今その中の一つを実行出来るチャンスが訪れた。それは、組織強化に結びつく在校生への同窓会からのアプローチが可能となったのだ。予てより、藤田会長が大学に再三申し入れはしていたが、中々明確な回答が得られなかった。しかし、大学との関係改善に力を入れてきた成果と新たな理事長、学長の就任によりようやく光を見ることとなった。先日行われた対談で、理事長、学長に賛意を示していただき、同窓会と大学との関係に大きな一歩を踏み出したと言える。すでに関係部署が動き始めているようであるが、学生に対する接し方は一様でなく多方面からのアプローチが必要である。適切な企画、学生の考えや意見を取り入れ、1日でも早く形あるものとしなければならない。その活動を通して学生に同窓会の存在意義を認知させ、入会に際して抵抗の無い環境を作らなければならない。2、3年ではとても無理な話だが大学の理解の下に必ず良い方向に向かうものと確信する。その為には、今後の現執行部の対応が非常に大きな影響を与えることとなり、十分な分析が必要と思われる。また、先の対談に同席した父母会会長とも、お互い協調しあいよりよい関係を構築するとの認識で一致した。父母会との協力が得られれば、より確実な活動が展開できる期待が膨らむ。何れにせよ、学生に対する活動に関しては同窓会、大学、父母会の三者の協力体制が不可欠であり、一つ欠けても目的が達せられないことになる。執行部に於いては、適切な判断と行動が求められるところである。

話は変わるが、同窓会自体も自浄作用を求める意見もかつて述べさせていただいたが、その最たるものがやはり代議員会の有り方である。色々有るのだが、皆さんが思っている、中々声に出せない代議員の定数問題がある。この問題はパンドラの箱を開けるが如く混乱を惹起させ、言い出した者には非難、中傷、悪口雑言が待ち受けることは容易に想像が出来るところである。しかし、同窓会を活性化させ真の同窓会を構築する為には、必要不可欠な事柄である。代議員定数については、それぞれ立場で意見があると思うが、私個人の見解としては、各県1名で十分であると思う。民主主義の立場で会員に見合った数をとる意見が大半を占めると思うが、全員身内であり親睦団体である同窓会が、数の論理で突き進むことは回避しなければならない。代議員会運営上も各県1人の代議員で十分である。各支部で十分協議され、代表である代議員に託せばよいのである。そこで一番問題となるのは、票決などの1票の重さであると思う。しかしそれは同窓会の発展には関係なく、それを論点とすることは、むしろエゴと捉えてもいいかもしれない。権利意識の過剰な主張は、組織を衰退させ正常な組織活動を蝕むことにもつながる。定数を減らすことで代議員の責任は重くなり、代議員会もより充実したものとなるのではと考える。従って、代議員会に向けては、各支部での十分な論議が望まれる。今は、同窓会との連絡ツールも整備しつつあり、それらの機能を十分活かせば無駄な時間も、経費も抑えることが可能となるはずである。難しい問題ではあるが、お一人お一人に是非考えていただきたい問題である。